商品の移動平均法での、在庫単価や粗利益の演算方法がチャートに書いた方法については後ほど確認させていただきます。

商品の単価変動は比較的ある方と思っております。

一昨日の仕入数量と単価 100ケース ＠1000円　　 その日の残数 28ケース

昨日 52ケース ＠1100円 その日の残数 11ケース

本日 110ケース ＠980円 その日の残数 52ケース

※商品によりますがこの程度の単価変動は想定しておいてください。  
  
一点、在庫表についてご質問いたします。  
  
在庫表レイアウト説明には「CP在庫 M の「最終入荷日」より」と書かれていますが、最終入荷日はどういったロジックで取得をするのでしょうか？  
資料を確認したところ最終入荷日の計算に関する記述が見つけることができませんでした。  
もし現在、明確な要件定義がない場合は、以下のような計算でよろしいでしょうか。  
  
【最終入荷日とは】  
商品が最後に入荷（在庫が増えた）した日付→はい、入荷（仕入のプラス数量および在庫調整の振替または調整、ロス、腐りのプラス数量です）。売上返品のマイナス数量、在庫調整の「加工費」「経費」に数量が入っていてもこれは無視してください。ロスや腐りのプラスは対象にしてください。  
【対象となる伝票と条件】  
「仕入伝票（通常の入荷）」  
  
①伝票種別：11（掛仕入）、12（現金仕入）　　  
②明細種別：1（仕入）  
③数量条件：数量 > 0（プラスの数量）  
④使用日付：JobDate（汎用日付2）→はい。①～④のとおりです。最終入荷日や当日在庫単価計算の対象です。  
  
「売上伝票（返品による入荷）」→返品は、入荷日および当日在庫単価計算に反映はしません。  
  
①伝票種別：51（掛売上）、52（現金売上）  
②明細種別：2（返品）  
③数量条件：数量 < 0（マイナスの数量＝返品）  
④使用日付：JobDate（汎用日付2）→③数量がマイナスの明細は、入荷日付込みの対象外です。  
  
「在庫調整（調整による入荷）」  
  
①伝票種別：71、72（受注伝票代用）  
②明細種別：1  
③数量条件：数量 > 0（プラスの調整）  
④区分コード：  
1, 3, 6：在庫調整　 数量がプラスが対象  
2, 5：加工費　　　　　 対象外  
4：振替 数量がプラスが対象  
⑤使用日付：JobDate（汎用日付2）

**全ての売上データは、在庫マスタの最終入荷日や当日在庫単価計算に使用しない**

→①②③は対象データ必須条件です。

④の区分で、「1（在庫ロス），3（腐り），6（在庫調整）」の数量がプラスは入荷日の付込みの対象です。

「２（経費」、5（加工費））は無条件で対象外となります。

「４（振替）」につきましては、数量がプラスのみ、最終入荷日や当日在庫単価計算の対象データとなります。